

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4077600130		
法人名	医療法人 三井会		
事業所名	グループホーム くましろ		
所在地 (電話番号)	〒830-1102 久留米市北野町八重亀391-1 (電話) 0942-23-4323		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年7月2日	評価確定日	平成21年8月19日

【情報提供票より】(H21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 20人, 非常勤 2人, 常勤換算 21.3人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独		新築 / 改築	
建物構造	鉄骨 造り			
	4 階建ての		2 階 ~ 4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要 (6月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	5 名	女性	22 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	13 名	要介護4	6 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	99 歳	最高	64 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、訪問看護ステーション「野いちご」、古賀歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然豊かな筑後川流域にありながらも、西鉄甘木線金島駅より徒歩数分という利便性のよい場所に立地し、少し足をのばせばコスモス、桜、菜の花など季節折々の花を楽しめる環境にある。ホームに隣接している母体病院や訪問看護ステーションとは医療連携がなされ、利用者の急変時にも迅速に対応でき、安心して暮らせる環境が整っている。ホームには献立委員会や農・園芸委員会等の利用者参加型の委員会があり、利用者の希望・要望を聞き入れたり、自己決定がしやすいような仕組みが作られている。日常生活の中で、音楽療法やりハビリを取り入れて残存能力を発揮出来る場面を作り、管理者・職員は日々、自己研鑽し常に何事にも意欲を持ってサービスの質の向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の改善課題は「運営に関する家族等意見の反映」、「重度化や終末期にむけた方針の共有」の二項目であり、それぞれに改善計画を立て、実行されている。特に項目 については看取りを実施している事業所に15名もの職員が交代で見学に向き、意識や技術を高めるなどの取り組みがなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全員に配布され、それぞれが記載した後に会議がもたれ、事業所の改善課題が共有できるよう努めている。その上で管理者等で自己評価のとりまとめが行われている。前回の外部評価における指摘事項については改善計画作成のもと改善に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加のもと定期的開催されている。会議の内容は利用者の日々の暮らし、行事、自己・外部評価等の活動報告以外にも、運営推進会議への家族参加の方法や介護事故の誘因、対処等について参加者からの意見を議題とするなど、双方向的な話し合いがもたれ、運営に活かされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>家族が面会時に気軽に相談ができるよう心掛け、話しやすい雰囲気作りに努めている。意見や要望があれば、ミーティングで話し合うようにしている。又、ご意見箱を設置する以外にも苦情の参考例を提示するなどして、ホームに対する意見を常にもらえるよう働きかけている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入できていないが、地域行事を常に情報収集し、運動会や文化祭等に出掛けている。利用者や散歩する際は近隣の方と挨拶を交わしたり、職員も地域の清掃活動に積極的に参加したりしている。また、小学生との交流会や中学生の体験学習の受入等も行われている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“普通の暮らしを当たり前で過ごし、皆さんとの「絆」を深めていきたい”と掲げられたホームの理念は、職員が主体となって作成されたものである。基本方針には自立支援及び地域貢献等の趣旨が盛り込まれ、事業所独自のものが作り上げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関及び各フロアーに掲示されている。また、毎朝のミーティング時に職員全員で唱和し、理念の共有に取り組んでいる。日々の生活の中で利用者から献立の希望を聞いたり、着る服を選んでもらったり、その日をどのように過ごしたいのか“自己決定”ができるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入できていないが、地域の行事を常に情報収集し、運動会や文化祭等に出掛けている。利用者や散歩する際は近隣の方と挨拶を交わしたり、職員も地域の清掃活動に積極的に参加したりしている。また、小学生との交流会や中学生の体験学習の受入等も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に配布し、評価票記載のうえ会議を行うことで、職員がグループホームに求められている事項及びホームが抱えている改善課題が共有できるように努めている。会議の結果を受けて管理者・ユニット長等で自己評価のとりまとめを行い、改善計画のもと具体的な改善に取り組んでいる。前回外部評価の指摘事項についても改善されていた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、家族等の参加のもと定期的開催されている。会議では利用者の日々の暮らし・行事・自己・外部評価等の活動報告以外にも、運営推進会議への家族参加の方法や介護事故の誘因、対処等について参加者からの意見を議題とするなど、双方向的な話し合いがもたれ、運営に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所等に出向きホーム便りを持参したり、困難なことがあれば相談し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	成年後見制度等についての研修や勉強会が実施されている事が確認できる。現在、ホームには対象となる利用者はいないが、相談があればパンフレットを用いて制度について説明する事ができる。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、職員の異動については家族面会時、家族会、ホームから発行している「便り」等で定期的に報告している。金銭管理等については、帳簿を家族に提示し確認をしてもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会時に気軽に相談ができるよう心掛け、話しやすい雰囲気作りに努めている。意見や要望があれば、ミーティングで話し合うようにしている。又、ご意見箱を設置する以外にも苦情の参考例を提示するなどして、ホームに対する意見を常にもらえるよう働きかけている。		苦情や意見等、直接スタッフに言えない家族もいることを想定し、無記名のアンケート等で幅広く意見を汲み上げるような取り組みを期待したい。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームは3ユニット(3フロアー:1フロアーは9名)あり、職員は日頃よりユニット間を行き来し、各ユニットの利用者と馴染みの関係を作るよう工夫している。 職員が退職・異動する場合は一ヶ月前から利用者及び家族に知らせ、補充にあたっては同性で同年代の人を採用する等して利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	利用者にとって職員構成も家族的な雰囲気を醸し出したいとの意味合いから、職員の募集・採用にあたっては年齢層が偏らないように努めている。 管理者及びユニット長は職員の能力が十分に発揮出来るように配慮し、職員の資格取得等のため研修・講習がある場合は優先的に公休がとれるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が人権に関わる研修に参加し、ミーティング等で職員に伝達していることが記録より確認できる。また、人権を尊重することを心がけたマニュアル等が整備され、職員は日常業務の中で「個の尊重」の実践状況について確認に努めている。		
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人全体及びホーム内、外部研修等で段階に応じた教育・研修を受ける機会が確保されている。また、段階によっては北欧での海外研修の機会も確保されている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、市のグループホーム事業所と連携を取りながら交流する機会が来ている。H21年3月にターミナルを実施している施設に15名程の職員が交代で見学に行っている。また、他事業所より研修生を受け入れる等して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が決定すると看護師とユニット長が自宅に出向き、状況を確認する。情報を収集し自宅と同じ空間作りをして、不安なく暮らせるよう配慮している。また、入居後は、利用者が安心できるよう経験の長いスタッフが対応する等して馴染みの関係を築くよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付け・洗濯物たたみ等は、利用者が出来る範囲で行えるようにしている。職員は利用者から園芸等で種の取り方や裁縫、調理の方法を教えてもらう等して、支え合いの関係が築けるよう日々努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者・家族の生活歴や時代背景を詳細に調べ、生活史チャートを作成し、思いや暮らし方の意向の把握に努めている。表現が困難な利用者については、家族に情報を伺いながら本人の表情、行動を汲み取り、本人本位に暮らせるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の意見・要望をもとに、職員で意見を出し合い作成している。 しかし、アセスメントの記録が個人ファイルに収められていないため、話し合いの作業自体が煩雑であることが推察される。		アセスメントのみが別ファイルにあることで、介護計画がアセスメント抜きで作成されることも考えられるため、日々の計画の見直しや効率よく介護計画を作成する上においても個人ファイルに綴られることを期待する。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的モニタリングを行い、評価しながら新たな介護計画を作成している。職員は、日々の生活の中で利用者の様子を細かく記載し、介護計画の見直しが必要な場合は、家族・関係者等で話し合って作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望により受診への同行、自宅への外泊や外出などの送迎、冠婚葬祭に同伴する等柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望によるかかりつけ医での受診は可能である。家族がいる場合でも専門的な治療が必要な場合は、職員が同行する等して受診している。また、母体病院でのリハビリや訪問看護による処置など適切な医療が受けられるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは過去に看取りの経験があり、利用者の入居時に重度化した場合あるいは終末期等について「看取りの指針」をもとに家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は再度家族と話し合いを重ね、方針を共有していくことに努めている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、丁寧な言葉使いや個々の人権を尊重した接し方をしている。職員は事務室を施錠し、利用者の個人ファイルや記録物等が第三者の目に触れないように保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや行事等のスケジュールはあるが、無理強いせず、個々の利用者の希望に沿うようにしている。その日をどのように過ごすかは利用者の希望で決め、要望があれば、買い物や理美容院に出掛ける等利用者本位に支援している。		
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立委員会には利用者も出席し、利用者の意見を聞きながらメニューが作成されている。また、利用者の能力によって食事の準備・後片付けを一緒に行い、職員も食卓を囲み利用者と同じものを食べている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間や曜日は、特に決まっていない。利用者に声をかけたり、好きな時間に入れるように支援している。浴槽に浸ることが困難な方でもバスリフトを使用し、入浴が出来るようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴に応じて、農園での野菜収穫や洗濯物たたみ、漬物を作る等培ってきた生活経験を活かせるよう支援している。又、役割を持って日々楽しく生活できるよう心掛けている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	法人所有の農園で野菜を収穫したり、コスモスや菜の花、桜の鑑賞など、季節感を感じられるように外出の機会をつくっている。また、近隣への散歩や買い物・理美容室等、個々の要望に応じて日常的に出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵はかけていない。夜間は安全確保のため19時頃に施錠が行われている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年2回(日中・夜間を想定)行い、利用者や併設の施設職員も参加している。避難訓練では、実際にスモークを焚く等実演に近い形で実施している。緊急対応マニュアルや緊急連絡網も整備し、連絡網は事務室に掲示され、法人内での夜間の応援体制も出来ている。地域住民へ訓練参加の声かけも随時行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランスの取れた食事やカロリー等に配慮した献立を作っている。また、個別の摂取状態を把握し、食べやすいように工夫している。利用者の食事量・水分量などは日誌に記録し、日々の状態を把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から見えるテラスには、季節の草花や野菜が植えられ、自宅の庭のような雰囲気となっている。また、玄関や食堂には手作りの物が飾られ、家庭的な温かみを感じられるようにしている。居室ドアには、利用者ごとに異なる花の写真パネルが飾られ、自分の部屋がわかりやすいように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム居室は職員が入居前に利用者宅に出向き、利用者・家族と相談しながら自室環境に近づけるよう工夫している。また、馴染みの家具や品物を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。		